

2017 長良川河口堰の開門調査もとめて

市民学習会

よみがえれ 長良川

予約不要・参加費無料（資料代 500 円）

第 1 回 長良川漁師口伝

2月16日 (木) 午後 6:30~8:30 メディアコスモス かんがえるスタジオ 1

(語り手) 大橋亮一さん 長良川漁師 磯貝政司さん 長良川写真家

第 2 回 長良川の昔とこれから

3月25日 (土) 午後 1:30~4:30 メディアコスモス かんがえるスタジオ 1・2

講演 1 長良川と鮎鮎街道

講師 高橋恒美さん フリージャーナリスト

講演 2 清流長良川で世代をつなぐ

講師 平工顕太郎さん 「結の舟」代表、長良川漁師

Free
the
Nagara
River

主催 よみがえれ長良川実行委員会

<http://nagaragawa.jimdo.com/> (連絡先) 武藤 090-1284-1298

「宝の川だった長良川は、魚の棲まないおぞい川になってしまいました。清流長良川は昔のことです。」長良川とともに生きてきた川漁師の悲痛な言葉です。

長良川の河口をふさぐ河口堰のゲートが閉鎖されて21年。海とのつながりを断たれて、長良川の環境は大きく変わりました。河口堰は塩水と淡水が入り混じる生き物にとって大切な汽水域を遮断し、広大なヨシ原の90%以上が消滅。そこに生きていた多くの生き物たちは棲みかや命を奪われました。日本有数のヤマトシジミ漁は大きな打撃を受けています。

河口堰は海と川を行き来する生き物の大きな障害にもなっています。長良川の象徴でもあるアユの漁獲高も激減。漁協による人工受精卵の河口への運搬や人工水路での孵化放流など、人の手を借りてしか個体数の維持ができない現状です。岐阜市はレッドリストで長良川の天然遡上アユを準絶滅危惧種に選定しました。水質悪化は伊勢湾にも大きな影響を与えています。

河口堰は四日市や名古屋臨海工業地帯の工業用水のために計画されましたが、現在まで一滴も使われていません。僅か16%が知多半島などの住民の上水道に使われているだけです。建設費や維持管理費は名古屋市民や愛知、三重、岐阜県民が税金や水道料金として支払ってきました。

生物多様性 COP10 の開催地愛知県は大村知事の公約である「長良川河口堰の開門調査」に基づき、2011年より長良川河口堰を検証する委員会を設置。検討を重ねた結果、開門による塩害の危惧の声を受け農業用水が長良川から取水しない時期（10月～3月）に開門調査を行う「プチ開門」が提案されています。この時期は鮎の降下・遡上の大事な時期であり、開門調査実現の期待が高まっています。

河口堰の開門によって、失われた自然がすべて元通りになるとは限りませんが、日本で初めてのダム撤去（荒瀬ダム）が進む熊本県球磨川では、川だけでなく海も目に見えて以前の自然が回復しています。「川は流れてこそよみがえる」、地元の人々の声です。お隣の韓国の大田（釜山）市でも、環境改善のためにナクトンガン（洛東江）河口堰を開門する準備が進んでいるといいます。

長良川・伊勢湾の再生のために大きな一歩を踏み出すときです。一日も早く、国と愛知、岐阜、三重の関係各県が話し合いをもち、開門調査を開始することを私たちはもとめます。

よみがえれ長良川実行委員会

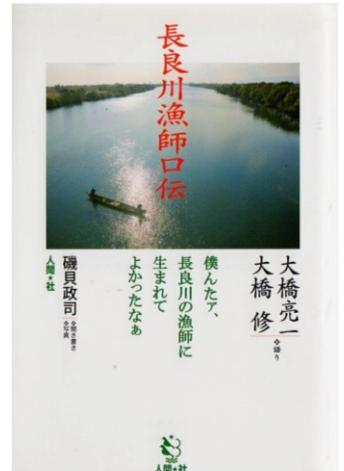
出演者のプロフィール

●大橋亮一（おおはし りょういち）

長良川漁協副組合長

1935年（昭和10年）生まれ、羽島市小島出身。

祖父から三代の川漁師。弟の修さんとともに長良川の漁を守り続け、現在愛知県長良川河口堰最適運用検討委員を務める。父・定夫さんは、漁協役員として河口堰建設反対運動の先頭に立った。



●磯貝政司（いそがい まさじ） 写真家

1941年（昭和16年）愛知県新城市で生まれる。1975年から本格的に写真に取り組み始め、コンテストなどに応募し、「木曾三川治水100周年記念コンテスト」大賞など多数受賞。2010年長良川漁師大橋兄弟の聞き取り取材で「長良川漁師口伝」を完成させた。現在は、出版物寄稿やトークショーなどに出演。

●高橋恒美（たかはし つねよし）

フリージャーナリスト

1941年（昭和16年）岐阜県笠松町で生まれる。新聞記者歴（読売新聞24年、岐阜新聞11年）。1970年代長良川河口堰建設反対市民運動の機関紙「川吹え」の編集責任を務める。2008年「鮎鮎街道ーいま昔」を著。

現在、笠松町文化協会会長。NPO法人「笠松を語り継ぐ会」代表を務める。



●平工顕太郎（ひらく けんたろう）長良川漁船「結の舟」代表

1983年（昭和58年）岐阜生まれ。長良川中流域に現存する地域固有の川風景を時代に残すため、金峯山麓の長良川を舞台に鮎を捕える伝統漁法の継承、天然鮎の種付け、木造漁船の修復などに従事。自身の漁船「結の舟」を開放し、市民や観光客、子どもたちに向けて長良川の魅力と威力に触れる体験型の船旅を提供。さらに、川漁を実践しながら水辺に潜む危険と向き合い、水難事故を防ぐ活動に尽力。水産学部卒。

